



原田辰

レアメタル資源再生技術研究会（会長＝藤田豊久、東京大学名誉教授）は18日、オンラインで第20回研究会をオンラインで開催した。今回は「ボストコロナの産業活性化に向けた循環経済ビジョンと資源リサイクルの展望（第2弾）」―日本型循環経済とE.U.のサーキュラーエコノミー」がテーマとなった。

レアメタル資源再生技術研究会・講演要旨

循環経済ビジョンと 資源リサイクルの展望



中村氏

会形成のためのシステム構築などを加えた議論に発展している。今回は循環経済に関する研究会として第2回目の開催となる。日本と欧洲から講演者を招いた。より深く議論を進めてほしい」と語った。

続いて同研究会理事で福岡県リサイクル総合研究センター長の中村崇セントナー長が「サーキュラーエコノミーの課題と今後の方針性—日本と欧州の資源リサイクルの得意・不得意—」について語った。

その中で中村氏はISO TC3233とISO/TC207の中、金属の二次原料の標準化が議論に上がっていると紹介した。スイスで金属の二次原料が劣悪な

直接的に金属の二次原料事業を經營する業者も數多く存在しており、適切に循環しているケースでは大きな影響はないかも知れないとの意見をしつつも、最終的にはトレーニングセミナーが強化され、途上国における準備状況などが関連されるようになるなど一定の影響が出る可能性があるとの認識を示した。

A black and white portrait of Tsuruoka Ichi, a middle-aged man with dark hair and glasses, wearing a dark suit and tie. He is looking slightly to his left with a thoughtful expression, resting his chin on his hand.

溶成長に對して年間7%の資源効率の向上が求められるなど資源効率には限界があるなどの認識を示した。

また、現在社会は経済成長を進めるためにバージン材を未だに必要としている事実を示しつつも「それでも今からサーキュラーティー（循環性）に移行しなければならぬ」と、循環経済の重要性を訴えた。

脱炭素で潮流変化 機能化技術の 売る発想が重要に

事業を經營する業者も数多く存在しており、適切な SDGs との合わせた形で議論的視点からだけでなく、

済成長に対する年間7%の資源効率の向上が求められる。

モノ(物質)を売
はなく素材の機能化
売る発想が重要と語
サイクル業は「資源循
から「残存価値」の
再提供に拡大するこ
要との認識を示した

環境で取り扱われてこない
とが落端となり、ISO9003
23とISO2007に提案
された。その結果可決され、
現在ジョイントワーキング
グループが立ち上がってい
る。今後は金属一次原料事
業の改善などのテーマを
中心に議論が進められてい
る。強化された地域社会との関
係③環境と天然資源の保全
と保護④再生金属のリカバ
リーの改善などのテーマを

論するところになつて、いく
との認識を示した。

現在、進められている議論としては①安全で健康で

21

い」と、循環経済の重要性を訴えた。



ツッカーエ